

## 編 集 後 記

本号は、二年続けた「グローバリゼーションとリージョナリゼーション」研究の成果の特集号である。21世紀は大変な事件で幕を開けた。このワールドトレードセンターに乗っ取られた航空機が突っ込むシーンを、私はタンザニアからの帰国途中の9月12日朝、オランダ航空が千歳空港に給油で着陸した際に、ロビーのテレビで見ることになった。グローバリゼーションに一端が、このような形でせまってこようとは想像もつかなかった。今後の世界をどのようなものにしていくか、我々一人一人の立場が問われることになると感じた。(吉田昌夫)

グローバリゼーションは、確かに世界中に大きな“うねり”をもたらしているが、果たして私たちの生活体験や存在意識を豊かにしているであろうか。もしも、“グローバル・スタンダード”が特定のインタレストやナショナリズムのみに基づくものであれば、人類はその“歪み”や“ひずみ”に翻弄されることになるであろう。ポスト冷戦の時代と言いながらも、“同時多発テロ事件”とアメリカの軍事行動をふりかえると、何かベシミスティックな気持ちになってしまうのは私だけであろうか。(河内信幸)

国際地域研究所の所長をつとめられた吉田昌夫先生が、ウガンダのマケレレ大学にお移りになることになった。東アフリカ随一の名門大学で、経済史の教鞭を執られる。研究員一同、吉田先生のご健勝を心からお祈りしたい。いまやアフリカも、そう遠くはない。あそびにいきますね!

(峯 陽一)

### 国際研究 18

2002年2月20日 発行

編集発行 中部大学国際地域研究所  
〒487-0027 愛知県春日井市松本町1200  
電話〈0568〉51-1111

印刷所 名古屋リプリント  
〒462-0825 名古屋市北区大曾根1-9-26  
電話〈052〉915-8922

編 集 委 員 会  
吉 田 昌 夫  
河 内 信 幸  
峯 陽 一